

CATJ 29 発表論文集スタイルシート (日本語版)

CATJ29サイトにて、学会発表論文集 (Proceedings)を掲載いたします。つきましては以下の要領で原稿をサドラー (sadlerm@illinois.edu)までメールの添付書類でお送り下さい。

締め切り：2022年8月31日

以下のガイドラインに基づいて原稿を準備して下さい。CATJ28の発表論文集 (<https://www.macalester.edu/asian/catj-28-proceedings/>)も参照できます。もしCATJ28の発表論文集と以下のガイドラインの間に違いがある場合は、ガイドラインを優先して下さい。

1 原稿の書式

1.1 概要

- 使用言語：日本語または英語(もし自分の第一言語ではない言語を使用する場合、必ず原稿をアカデミックな場で使用している人にチェックしてもらって下さい。Grammarlyなどのアプリには頼らない方が良いです。)
- ページ制限：20ページ(それよりも長くなる場合は、ご相談ください。)
- ファイル形式：Microsoft Word と PDF file で提出のこと。
- 余白 (Margin)：1 inch on all four sides
- 行間隔 (line spacing)：Single-spaced
- ページ番号 (page numbers)：使用しない
- 表記：原則としてローマ字はヘボン式を用い、アルファベットは半角文字 (Times New Roman)、数字は算用数字 (Times New Roman) を使用する。
アルファベットで、(A) などを使用する場合は、原則として大文字か小文字かを統一して使用する。
括弧を使う場合、日本語の原稿でも英語の原稿でも、Times New Roman の括弧を使用し、括弧の前と後には一つ Times New Roman のスペースを空けること。ただし、括弧の後に句読点がある場合には後のスペースは必要ない。
例 「アメリカにおける日本語学習者(継承語学習者も含め)について」
「アメリカにおける日本語学習者を指す(継承語学習者も含め)。」

1.2 邦文

- 論文名：MS Mincho 14 ポイント (論文名の上を2行あける) 太字 (bold) を使用すること。
- 執筆者名及び所属：MS Mincho 12 ポイント、右揃え
- 和文要旨：10 ポイント(400字以内、「要旨」という語の後に改行)
- キーワード：10 ポイント(5項目以内)
- 本文：12 ポイント
- 注：10 ポイント
- 参考文献：10 ポイント

1.3 英文

- 論文名：Times New Roman 14 ポイント (論文名の上を2行あける) 太字 (bold) を使用すること
- 執筆者名及び所属：12 ポイント、右揃え
- 英文要旨：10 ポイント(200語以内)
- キーワード：10 ポイント(5項目以内)
- 本文：12 ポイント
- 注：10 ポイント
- 参考文献：10 ポイント

2 原稿の区切りと見出し

原稿は章、節、項などに区切る。章の見出し番号は通し番号とし、節の見出し番号は「1.1」、「1.2」とし、行の左に書く。項を設ける場合は、「1.1.1」、「1.1.2」とすること。見出しの前と後にスペースを一行ずつとり、見やすくすること。見出しと見出し番号は太字を使用すること。

英文のみ、見出し直後の段落は indent しない。

3 図表

図表はそれぞれ、「図 1」「図 2」「表 1」「表 2」と番号をうち、タイトルをつけること。原則として、本文中の必要な位置に図表を入れること。

図表中の文字は 9 ポイント以上の大きさを使用すること。

図表と本文の間に 1 行程度のスペースをとること。

4 引用

引用は、文中では「松見 (2002)」、「Kern (1995)」のように書き、論文末に参考文献の形で詳しく記す。文中でページを明記する場合は「松見 (2002:98)」のようにする。

5 注

本文中に注をつける場合は、右肩に通し番号「1, 2, 3, ...」をつけ、論文末に記載すること。注を先に、参考文献を最後に記載すること。

6 文献

本文で引用した全ての文献をリストし、本文で引用しなかった文献は含めない。文献は和文献、洋文献の順にまとめる。和文献は、著(編)者名を五十音順に配列し、洋文献は、著(編)者名をアルファベット順に配列する。同じ著者の複数の論文を記載する場合は、古い順に並べ、著者名は複数回に渡って記載する。以下の例を参照のこと。

<本>

岩渕功一 (2007)『文化の対話力 ソフト・パワーとブランド・ナショナリズムを越えて』日本経済新聞出版社。

<本の章>

松見法男 (2002)「第二言語の語彙を習得する」海保博之・柏崎秀子 (編)『日本語教育のための心理学』第 6 章, 新曜社, pp. 97-110.

<ジャーナル掲載の論文>

蒲田修 (1990)「Proficiency のための日本語教育—アメリカにおける『上級』の指導—」『日本語教育』71, 44-55.

遠藤織枝・尾崎喜光 (1998)「女性の言葉の変遷—文末・コト・テヨ・ダワ中心に—」『日本語学』17 (5), 56-78.

<ウェブサイト (執筆者の氏名がある場合)>

北川学 (2020)「小池都知事は『カイロ大学を卒業』大使館が声明文公開」『朝日新聞デジタル』https://digital.asahi.com/articles/ASN697HGZN69UHBI02S.html?iref=com_alist_8_04 (2020 年 6 月 9 日アクセス)

<ウェブサイト (執筆者の氏名がない場合)>

法務省 (2020) 「在留外国人統計 (旧登録外国人統計)統計表」

http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html (2020年6月9日アクセス)

<Book>

Grellet, F. (1981) *Developing reading skills: A practical guide to reading comprehension exercises*. Cambridge: Cambridge University Press.

<Book Chapter>

Miyazaki, A. (2004) Japanese junior high school girls' and boys' first-person pronoun use and their social world. In S. Okamoto & J. S. Shibamoto Smith (Eds.), *Japanese language, gender, and ideology: Cultural models and real people*. Oxford: Oxford University Press, pp. 256-274.

<Journal Article>

Hill, B., Ide, S., Ikuta, S., Kawasaki, A., & Ogino, T. (1986) Universals of linguistics politeness: Quantitative evidence from Japanese and American English. *Journal of Pragmatics*, 10 (3), 347-371.

<Internet article with the author's name>

Johnson, Jesse. (2020) Japan says it wants to take lead with G7 on Hong Kong security laws. *The Japan Times* (June 10, 2020). <https://www.japantimes.co.jp/news/2020/06/10/national/japan-lead-g7-hong-kong-national-security-laws-china/#.XuDyl2pKigQ> (accessed June 10, 2020)

<Internet article without the author's name>

The Japan Foundation. (2020) The program guidelines. <https://www.jpf.go.jp/e/program/index.html> (accessed June 6, 2020)